

# 平成16年度 試験研究成果書

区分	普及	題名	箱施用剤の新剤型「顆粒水和剤」の葉いもち防除効果と使用上の留意点			
〔要約〕 ジクロシメット水和剤またはイミダクロプリド・カルプロパミド水和剤の移植2日前～当日の育苗箱かん注処理は均一な薬剤散布が可能で、葉いもちに対して有効である。						
キーワード	イネ	顆粒水和剤	箱施用	葉いもち	均一散布	病害虫部 病理昆虫研究室

## 1 背景とねらい

葉いもちを対象とした箱施用剤は長期間防除効果が持続することから、県内に広く普及している。従来、これらは粒剤型であったが、「ジクロシメット水和剤」（商品名：デラウス顆粒水和剤）と「イミダクロプリド・カルプロパミド水和剤」（商品名：ウインアドマイヤー顆粒水和剤）はこれまでにない顆粒水和剤型で、中成苗でも均一な箱処理が可能である。今回、両剤の防除効果が従来剤型と同等であることを確認できたので、病害虫防除基準に採用する。

## 2 成果の内容

### (1) 使用する薬剤と使用方法

一般名	使用時期	使用倍率	散布量	使用方法
ジクロシメット水和剤 (デラウス顆粒水和剤)	移植当日	200倍	500mL/箱	育苗箱の上から均一にかん注する。
イミダクロプリド・カルプロパミド水和剤 (ウインアドマイヤー顆粒水和剤)	移植2日前～移植当日	100倍		

### (2) 防除効果

両顆粒水和剤は育苗箱施用（移植当日）により、7月中旬まで葉いもちの発生を抑制できる（表1、表2）。

### (3) 使用方法

本剤型の処理は、所定濃度の薬液をジョウロやかん水装置を用いて、苗の上から所定量を均一に散布する。

### (4) 使用上の留意点

- ア 育苗箱からの薬液流亡を防止するため、処理前後のかん水は行わない。また、薬剤処理の翌日以降は、一般のかん水管理とする。
- イ 本剤を箱施用した場合、本田での穂いもち防除剤としてフェノキサニル剤（商品名：アチーブ粒剤9、同1キロ粒剤24）を使用しない。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) デラウス顆粒水和剤の農薬登録は200倍液の「は種時～移植時」であるが、は種時施用は葉いもちが多発する条件では防除効果が短いので、本県では使用時期を上記に限定する。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯または対象者等 県下全域
- (2) 期待する活用効果 薬剤の均一施用が可能となり、葉いもちを抑制できる。

## 5 当該事項にかかる試験研究課題

- (402) 新農薬の効果検定と防除基準作成（昭和49年～、民間委託）

## 6 参考資料・文献

- (1) 平成17年度農作物病害虫・雑草防除基準
- (2) 佐々木ら（2004）：北日本病虫研報55、P267
- (3) 平成15年、16年病理昆虫研究室成績書（未定稿）

## 7 試験成績の概要

表1 デラウス顆粒水和剤の防除効果 (平成16年岩手農研圃場内)

供試薬剤	施用方法と時期	7/6	7/15		7/30	同左 防除価	薬害	
		発病株率	発病株率	病斑数/株	上位3葉 病斑数/株			
デラウス顆粒 水和剤	×200、500mL/箱 移植時施用	13.8	14.0	0.4	#	1.0	97.2	—
Dr. オリゼ箱粒剤	50g/箱 移植時施用	11.3	23.8	0.9	\$	1.0	97.2	—
無処理		76.3	100	65.0		36.0		

区制：2圃場反復無し 品種：ひとめぼれ 葉いもち：甚発生 移植日：5月17日 出穂日：8月8日 中苗移植  
摘要

\*デラウス顆粒水和剤の移植時処理は7/15の病斑数で、デラウス顆粒水和剤のは種時処理と(5%、片側検定)、Dr. オリゼ移植時処理(5%、両側検定)に優り、7/30の上位3葉の病斑数ではデラウス顆粒水和剤のは種時(5%、片側検定)に優り、Dr. オリゼ移植時と同等

表2 ウィンアドマイヤー顆粒水和剤水和剤の防除効果 (平成15年岩手農研圃場内)

供試薬剤	施用方法と時期		7/10	7/24	8/6			薬害	
			発病株率	発病株率	発病株率	同左 防除価	発病率		上位3葉 病斑数/株
ウィンアドマイヤー 顆粒水和剤	×100、500mL/箱 移植2日前施用	I	0	1.7	0		0	0	—
		II	0	1.7	16.7		0.67	0	
		平均	0.0	1.7	8.4	77.6	0.34	0.0	
ウィン箱粒剤	50g/箱 移植当日施用	I	0	3.3	0		0	0	—
		II	0	0	6.7		0.10	0.02	
		平均	0.0	1.7	3.4	90.9	0.05	0.01	
無処理	—	I	0	1.7	8.3		0.13	0.03	
		II	0	1.7	66.7		5.35	0.23	
		平均	0.0	1.7	37.5		2.74	0.13	

区制：2反復 品種：ひとめぼれ 葉いもち：少発生 移植日：5月26日 出穂日：8月12日 成苗ポット苗移植

\*統計処理した結果本試験では有意差は見られなかったため、反復の数値を記載した

摘要

\*ウィンアドマイヤー顆粒水和剤とウィン箱粒剤の移植時処理は同等の効果が見られた。